

平成22年 ふれあい座談会

主 催	ふじみ野市
テ ー マ	大井総合支所の再整備について
日 時	平成22年12月18日(土)・午後7時～9時
場 所	大井総合支所第2庁舎第1・2会議室
参 加 者	17名
市	市長、副市長、総合政策部長、秘書広報課長

(市長あいさつ・市長説明 省略) 以下は主な質疑です。

参加者:民地の買収は進んでいるのか。
市 長:8月頃に言えなかったのは、地権者の同意をいただくように水面下で進めていました。話が進んだ場合には協力すると言われています。

参加者:売買契約は結んだのか。
市 長:結んでません。了解は得ています。

参加者:妻が障がい者で目が見えない。本庁舎に行くよう言われるが、支所で100%できるようにして欲しい。
市 長:議員からもそう言われています。全力で回復させたいと思っています。建て替え期間中の仮設建物にもエレベータを付けて障がい者も使いやすいようにやって行きます。窓口業務の拡大は4月に実施できるもの、仮設庁舎でできるものと、段階的にやっていきます。

参加者:庁舎間のバスがあれば解消できるのでは。
市 長:そのとおりだと思います。

参加者:新しい支所の規模は。
市 長:可能なものを造りたいと思います。児童センターは、個人的な思いです。保健センターも古くなっているし、シビックゾーンでもあるので、複合的な建物を検討できればと思います。

参加者:予算的にはどうなのか。
市 長:耐震補強工事と大規模改造工事の予想額8億以内でできればと思いますが、必要であれば合併特例債を使用して可能な範囲で検討します。新築であれば、電気代などのライフサイクルコストも節約できます。

参加者:本庁舎も耐震補強工事をするのか。建て替えるのであれば、本部機能を支所に移転でせきるのでは。

市長:そういう考えもあるでしょう。支所の建て替えは消防から話が来なければ着手できなかったと思います。対等合併なので、市の中心位置に本庁舎を造るという議論もあります。両方の地域に総合支所方式でリニューアルするのがベストでしょう。消防は時間がないので、この状態で続けて行くことになりました。本庁舎は後になりますが、本庁の管理部門を動かすのは、敷地の広さから物理的に難しいです。

参加者:具体的に建て替え準備が進むのか。民地はどこが買うのか。

市長:そのとおりです。民地をを買うのは消防組合です。残りの土地は市が売却しますが、消防は一部事務組合なのでふじみ野市も買うことになりません。苗間の現本部を売却すれば、それも収入になります。

参加者:消防署の耐震化はどうか。

市長:大井分署とみずほ台分署、消防本部が耐震を満たしていません。

参加者:複合施設には保健センターなど良いと思うが。

市長:個人的には、保健センターとか児童センターはどうかと思っています。

参加者:旧大井給食センター跡地は庁舎用地として使えないか。

市長:文化財の保存場所として使用しています。周辺道路の整備の話は出ていますが面積も狭く、庁舎として使用する話は出てません。

参加者:対等合併なのに支所でできる業務が少ないのは困る。

市長:役所に行ってできることが一番と思っています。消防の話の前に支所機能の充実を優先するよう指示しています。

参加者:産業まつりを別々にできないか。何でも上福岡地域に持って行くのはなぜか。

市長:実行委員会で決めています。2年続けて東側で開催しているので不便だろうと思っています。1年ごとにできないかと考えていますので、要望が叶うよう意見を持って行きます。

参加者:12月になって支所の再整備について知った。何人が知っているのか。地域の人がどれだけ知っているかが大切ではないか。

市長:回覧や市報で周知しています。説明会は来年も実施し、内容は2月号の市報で公表します。今回は、消防の緊急性からやむを得ないと考えてい

ます。119番通報しても繋がらないという事態が、いつ発生するか分かりません。震災がいつ来るか分からないため時間をかけられないのです。

参加者:緊急なら丁寧にやってほしい。

市長:様々な会合に出席するたびに説明しています。短い期間でしたが、検討してきました。長いスパンのものなら十分な時間をかけて説明会などを実施しますが、住民の命と財産を守る、短い時間で判断する必要がありました。市民代表の議会にも判断をお願いしました。

参加者:緊急性はある、議会も判断したと思うが、今まで消防組合が放置してきたからではないか。今回はそれをごまかすため、隠ぺいするためにやるのでは。

市長:もっと早くやるべきだったと思います。隠ぺいするためではありません。行政はその時々で判断しなければなりません。合併後に残念な事故も起きています。断ってしまえばこんな事にはなりませんが、課題があっても、市民の利益のために選択し、判断しました。

上福岡駅付近の県道渋滞緩和の東西連絡道路は国庫補助が30億円付く事業でしたが廃止せざるを得ません。障がい者の方の就労や入居施設も欲しいです。今後の財源をどうやって捻出するのか。道路の維持・修繕費用をどうやって生み出すのか。最善の方法を行っていかねばなりません。今回ののは市民の利益に繋がるものです。

参加者:消防本部が来ると騒音もある。節約してどうしても駄目だったら仕方ないが、知らない人が多い。市が消防を誘致したのではないのか。

市長:誘致したわけではありません。消防組合の検討組織で議論され、消防から依頼がきました。前市長の時、平成18年に消防力適正配置計画が示されています。騒音との事ですが、上福岡消防署は住宅地に造っていて、支所以外の土地では更に住宅に近づきます。

参加者:消防職員を確保してほしい。国基準にして市民の安全を。

支所を新築するなら中途半端なものでなく良いものにして欲しい。

市長:消防署を6署体制から5署体制にすることで国基準に近づきます。効率的に2市1町の守りを固めることになります。

建て替え時にコストは押さえたいが、意見を聞き入れながら議会の了解を得て進めたいと思います。